

請求の範囲

- [請求項1] 平均官能基数2.3以上3.2以下の脂肪族ポリイソシアネート（A）と、
平均官能基数2.0以上2.3以下のポリオール（B）と、
エステル基を含有する可塑剤（C）と
を含有するポリウレタンゲル材料であって、
前記脂肪族ポリイソシアネート（A）は、脂肪族ジイソシアネートのイソシアヌレート誘導体、および／または、脂肪族ジイソシアネートのアルコール変性イソシアヌレート誘導体を含み、
前記ポリオール（B）は、エチレンオキシドの含有量が30質量％以下であるポリオキシアルキレン（炭素数2～3）ポリオール、および／または、ポリテトラメチレンエーテルグリコールを含み、
前記ポリオール（B）の平均水酸基価が30mg KOH/g以上70mg KOH/g以下であり、
前記可塑剤（C）の割合が、前記ポリオール成分（B）100質量部に対して、50質量部以上400質量部以下であることを特徴とする、ポリウレタンゲル材料。
- [請求項2] 前記ポリオール（B）の平均官能基数が、2.0であることを特徴とする、請求項1に記載のポリウレタンゲル材料。
- [請求項3] 前記ポリオール（B）の平均水酸基価が37mg KOH/g以上56mg KOH/g以下であることを特徴とする、請求項1に記載のポリウレタンゲル材料。
- [請求項4] 前記脂肪族ポリイソシアネート（A）の平均官能基数が2.3以上3.0以下であることを特徴とする、請求項1に記載のポリウレタンゲル材料。
- [請求項5] 前記脂肪族ジイソシアネートが、ペンタメチレンジイソシアネートおよび／またはヘキサメチレンジイソシアネートを含むことを特徴とする、請求項1に記載のポリウレタンゲル材料。

- [請求項6] 前記可塑剤（C）の割合が、前記ポリオール成分（B）100質量部に対して、100質量部以上200質量部以下であることを特徴とする、請求項1に記載のポリウレタンゲル材料。
- [請求項7] 前記可塑剤（C）が、シクロヘキサンジカルボン酸エステル類および／またはアジピン酸エステル類であることを特徴とする、請求項1に記載のポリウレタンゲル材料。
- [請求項8] 請求項1に記載のポリウレタンゲル材料の反応生成物であることを特徴とする、ポリウレタンゲル。
- [請求項9] 前記ポリウレタンゲル材料において、
ポリオール（B）中の水酸基に対する脂肪族ポリイソシアネート（A）中のイソシアネート基の当量比（NCO／水酸基）が、0.8以上1.2以下であることを特徴とする、請求項8に記載のポリウレタンゲル。
- [請求項10] 請求項8に記載のポリウレタンゲルからなることを特徴とする、疑似生体材料。
- [請求項11] 請求項1に記載のポリウレタンゲル材料を準備する準備工程と、
前記ポリウレタンゲル材料を反応および硬化させ、ポリウレタンゲルを得る反応工程とを備え、
前記反応工程において、
ポリオール（B）中の水酸基に対する脂肪族ポリイソシアネート（A）中のイソシアネート基の当量比（NCO／水酸基）が、0.8以上1.2以下であることを特徴とする、ポリウレタンゲルの製造方法。